

中学校英語科における4技能の統合的な言語活動の工夫

～「読むこと」を「話すこと」につなげるリテリング活動による実践研究～

英語で「話すこと」に抵抗感のある生徒が多い。教科書の本文の内容を相手に伝えるリテリング活動を段階的に行うことで、「読むこと」を「話すこと」につなげることが可能となる。生徒は英語で教科書の内容をまとめ、自分の言葉で話すことで、将来的に「言語活動」から「言語行動」につなげられる。

1 実践の具体

① 単元のまとめとなるリテリング活動

リテリング活動とは、生徒が英文を読み、その内容を英語で伝える活動である。単元の学習が終わった段階で、まとめとしてリテリング活動を行った。授業の最初に復習として、教科書の本文を音読する。その後、生徒がキーワードを抜き出す。そのキーワードをつなげて30秒間のリテリング活動をペアで行う。その後、単元全体のリテリングを1分間でペアに伝え、評価を受ける。

② リテリング活動の段階的指導

4月から「①教科書の音読」、「②教科書のキーワードの抜き出し」、「③話す時の導入を考える」ことから始め、9月から「④教科書の本文から文を抜き出し」、「⑤話す順序を考える」を行う。10月からは最終段階として「⑥文の終わらせ方を考える」ことで、教科書本文で学んだことや、その中で考えたことを述べる。導入・本文・結論の順番で話すことで、まとまりのあるリテリングを行う。

2 実践の成果と今後の方向性

生徒はリテリング活動を通して「英語の力が伸びた」と実感した。これは、英語で「読むこと」、「話すこと」の力が伸びたと実感した成果である。また、ALTの評価からも生徒の「話すこと」に関する上達が分かる。

今回の実践では「読むこと」と「話すこと」を統合した活動であったが、活動の中で話したことを「書くこと」に結び付けたり、聞いたことを「話すこと」に結び付けたりするなど多様なリテリング活動を設定することが可能である。